

府民のみなさんへ

橋下知事の「教育改革」に異議あり！

府民の手でどの子どもも人間として大切にされ、  
ゆたかな学力を育てる教育をすすめてみましょう

2008年11月29日

大阪教職員組合 大阪府立高等学校教職員組合  
大阪府立障害児学校教職員組合 大阪私学教職員組合

1. これで大阪の子どもたちが  
笑えるのでしょうか

「子どもが笑う大阪を」とアピールして当選した橋下知事。ところがどうでしょう。大阪の小中学生の「全国学力テスト」の結果を見て、「このさまは何だ」とののしりまじした。私学助成の継続などを訴えた高校生との話し合いでは「いまの日本は自己責任が原則」「義務教育までがみんなを平等に扱う年限。それがおかしいというのなら、国を変え



るか、日本から出るしかない」と冷たくつき放しました。知事が任命した陰山府教育委員は府内の小中学校長を集めて、「(全国学力テストで)三度悪い結果を出さない。目的のためには手段を選ばない」と、有無を言わせない号令を発しています。

はたしてこれで、本当に子どもたちが笑えるのでしょうか。学校教育にいま何が求められるのか、ごいっしょに考えましょう。

2. 子どもがながい、府民が  
のぞむ学校教育へ、府民が  
学校関係者、教育行政が  
力を合わせましょう

どの子ども大切にされ、  
ゆたかな学力はぐくむ学校に

異常ともいえる日本の競争社会のもとで、少なくとも子どもたちが自分に自信がもてず、イライラしたり、将来への希望を見失ったりしています。それなのに、府教育委員会は「全国学力テスト」の順位を引き上げるため、府独自の「模擬テスト」を毎年行い、知事は「テストの点数が公表されなければ子どもは勉強しない」と、各学校に競争の教育を迫っています。これでは、「学力テスト最優秀の学校」になってしまい、子どもたちの「勉強が嫌い」、ストレス、いじめ、登校拒否などを逆に増やしてしまっているのではない

のでしょうか。

子どもたちは不安や悩みをかかえながらも、「勉強がわかりたい」「自分を愛えたい」という、人間としてのねがいや誇りをもっていきます。そのねがいが教職員や仲間からあたたかく受けとめられたとき、子どもたちは生きる喜びを見だし、学ぶ意欲を高めます。さらに、友だちとの学び合いや集団での自主活動の場がつけられることによって、子どもたちの学力はぐんぐん育っていきます。勝ち負け競争やたたき込み指導では「学力テスト」の点数を引き上げることができても、生きる力につながる学力を育てることはできません。どの子ども大切にされ、ゆたかな学力をはぐくむ学校をつくるために、教職員と保護者、府民が力をあわせましょう。

知事の顔色より、子どもや保護者、  
住民の声を大切にす学校に

橋下知事は、考えがちがうからというので、「あのクソ教育委員会が」と、教育に責任を負う府教育委員会を罵倒し、予算削減まで手段に使う市町村教育委員会に「全国学力テスト」の平均点公開を迫りました。そのうえ、各学校での計算や漢字の指導方法まで知事がさしずししようとしています。学校教育は子ども人間らしい成長を目的に、主権者である国民のねがいにもとづいて、教職員と保護者や住民が力をあわせてすすめていくものです。時どきの政治指導者の思わくによっ

てゆがめられてはなりません。

子どもを主人公に、保護者と教職員が力をあわせて学校づくりをすすめてみましょう。そのために、学校は子どもたちの様子や教職員のとりくみ、学校運営などについて保護者や住民にいていねいに知らせるとともに、保護者が学校へのねがいや要望をじゅうぶんに出せる場をつくるのが求められます。親の悩みや教職員の苦悩もおたがいに話し合い、トラブルも力をあわせて解決していく、そんな学校をいっしょにつくりましょう。

「子どもの貧困」をなくす施策、  
少人数学級の拡充や教育予算の増額を

「保険証がないから病院に行けない」「一人親家庭のため毎晩子どもだけで夕食、就寝」「親のリストラで高校を中途退学」。こんな「子どもの貧困」問題が重大化しています。大阪府の生活保護受給率は全国2位。完全失業率も2位。「無保険の子ども」の数は5位です。教育条件を見れば、中学校での30人以下学級の比率は全国平均が36%、大阪はわずか10%です。図書館の数はワースト4位です。しかも、橋下知事に代わってから、教育予算はさらに350億円も削られました。これらの事実を目をふさいで、「全国学力テスト」の結果をうんぬんするのは、子どもたちがあまりにもかわいそうです。知事しなければならぬのは、「子どもの貧困」をなくす生活支援の施策、教育予算の増額で

す。教育委員会が責任を負うのは、少人数学級の拡充、支援学校の増設、希望するすべての生徒が高校に進学できるように私学助成や公立高校の定員増・授業料減免措置などを拡充することです。それらを求める府民の世論と運動をいっそう強めましょう。

3. 子どもたちは宝。「競争の教育」  
ではなく、人間的連帯と希望を  
はぐくむ教育を

知事との話し合いに参加した私立高校生の一人は、小学校でのいじめが原因で中学校時代は不登校になり、家にこもる毎日でした。その彼女が、高校で生徒会がとりくむ放課後の自主学習に参加し、みんなでワイワイ言いながら、教え合いすることで大きく変わりました。「授業が理解できるようになり、私は生きていてもいいんだ。生きるっておもしろいな」と思えるようになった。生徒会活動を通して、みんなが生きていく意欲をもてるような学校をみんながいっしょにつくってほしい、そう語るままでになっています。

ここに、子どもたちがみずから学び、友だちと支えあひながら成長し、自分の手で生きる希望をつくりだしている、教育の一例を見ることが出来ます。子どもたちが求めているのは、「勝つか、負けるか」の競争ではなく、あたたかい人間的連帯です。特訓による「テスト学力」ではなく、「わかりたい」という人間的なねがいに応える学習です。

子どもたちは、社会の宝、未来への希望です。大阪の子どもたちが、どの子ども大切にされ、ゆたかな学力を身につけ、生きる希望をもってすすんでいけるよう、すべての府民、学校関係者、教育行政が力を合わせようではありませんか。